

# 【法人向け】 原状回復工事を計画する時の 26のチェックリスト

# 原状回復工事とは

## 原状回復工事とは「契約締結以前の状態に戻す工事のこと」

「原状回復」とは、「ある事情によってもたらされた現在の状態を本来の状態に戻すこと」です。そのため、物件を契約解除した時に発生する原状回復工事における「原状回復」とは、「物件契約締結以前の状態に回復させること」になります。そして、物件を借りたテナント、物件を貸したオーナーそれぞれが契約に基づいて工事を行い、原状回復しなければならない義務のことを「原状回復義務」と言います。



# 原状回復工事の工事区分

原状回復工事は、その内容や実施する箇所によって「A工事」、「B工事」、「C工事」と3種類に分類されます。賃貸契約書や特約にて取り決められている内容によって、工事範囲が決まり、誰が工事を発注し、工事費用を誰が支払うのかがそれぞれ定められています。

|                            | A工事                                           | B工事                                        | C工事                               |
|----------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------|
| 工事会社の指定                    | オーナー                                          | オーナー                                       | テナント                              |
| 工事会社への発注                   | オーナー                                          | テナント                                       | テナント                              |
| 工事費用の負担                    | オーナー                                          | テナント                                       | テナント                              |
| 主な対象範囲<br>※対象範囲は物件により異なります | 施設の共用部<br>エレベーター、共用トイレ<br>共用通路<br>標準的な設備<br>等 | 分電盤<br>給排水<br>防水防災設備<br>厨房給排気<br>空調設備<br>等 | 内装工事<br>什器備品<br>照明器具<br>電話工事<br>等 |

B工事は、テナントが工事費用負担するにも関わらず、オーナーが工事会社を指定する工事になります。そのため、**B工事は割高な見積が提示される可能性が高く**特に注意する必要があります。

# 原状回復工事（B工事）が高額となる主な理由

原状回復工事（B工事）が高額となる理由は主に3つ挙げられます。

## 理由①

### 競争原理が働かない

テナントで工事する会社を選定できるC工事であれば、発注者であるテナントは相見積もりを行うなど競争原理を働かせながら、工事費を適正にしていけることができます。一方、B工事はオーナーの指定業者で工事を行うため、オーナー側で工事費を適正にする必要のない工事ともいえます。

## 理由②

### 工事を行う指定業者が交渉に応じてくれない

B工事の指定業者とテナントは基本的にはこれきりの付き合いになります。指定業者としては、これからも付き合いが続く施設側（オーナー）との関係を重視しようとし、そのため、関係性が無くなるテナントとは、工事費を下げてほしいという交渉に応じなくとも良いと考える傾向にあるのです。

## 理由③

### 重層下請構造で中間マージンが発生している

これは建設業界の構造上の問題です。工事を発注した場合、その発注を受けた会社と実際に工事を行う会社の間にいくつもの会社が介在します。中にはただ仕事を横流しする会社が介在するケースもあり、本来必要のない中間マージンが発生していることが往々にしてあるのです。介在する会社が多ければ多いほど工事費も高額となります。

# 原状回復工事チェックリスト

適切に工事を計画し進めていくことで、工事費は適正にしていくことが可能です。  
原状回復工事におけるチェックポイントを下記3つの段階において、作成しました。  
原状回復工事を計画する際に、ぜひお役立てください。

①オーナーに退去を伝える前にすべきこと



②オーナーに退去を伝えた後、  
工事会社から見積を取得する前にすべきこと



③取得した見積を確認する時に気をつけるべきこと

# 原状回復工事チェックリスト（退去を伝える前-1）

| 項目                 | チェック                     | 内容                     | 備考                                                                                                        |
|--------------------|--------------------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オーナーに退去を伝える前にすべきこと | <input type="checkbox"/> | 原状回復工事の内容と範囲を確認する      | 賃貸借契約書や特約を確認し、原状回復工事をどの範囲で実施する必要があるのか確認するようにしましょう。スケルトン状態にする必要があるのか、床・壁・天井まで原状回復する必要があるのかで今後の計画は変わります。    |
|                    | <input type="checkbox"/> | 工事の指定業者があるかを確認する       | 賃貸借契約書や特約を確認し、原状回復工事の指定業者が設定されているかを確認しましょう。                                                               |
|                    | <input type="checkbox"/> | A工事、B工事、C工事の範囲について把握する | 各物件のABC工事の範囲は工事区分表で確認することができます。工事区分表が手元に無い場合はオーナーに伝えて入手しましょう。特にB工事、C工事の工事範囲はテナントの費用負担となるためよく確認するようにしましょう。 |
|                    | <input type="checkbox"/> | 解約予告期間を確認する            | 入居している物件から退去を伝える解約予告の期間は、6ヶ月前であることが一般的です。オフィス移転の場合であれば、この6ヶ月の間で移転先内装工事、引っ越し準備、原状回復工事などを行っていく必要があります。      |
|                    | <input type="checkbox"/> | 入居の経緯を確認する             | どのような事情で現テナントに入居するに至ったかを確認しておくといいでしょう。もし、オーナー側と関係のある誰かの紹介である場合、交渉において良い材料となる可能性があります。                     |

# 原状回復工事チェックリスト（退去を伝える前-2）

| 項目                 | チェック                     | 内容                                                | 備考                                                                                                             |
|--------------------|--------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オーナーに退去を伝える前にすべきこと | <input type="checkbox"/> | 原状回復工事を実施するタイミングを確認する                             | 原状回復工事は物件契約期間内に行うのか、退去後に行うのかを確認するようにしましょう。店舗やオフィス物件の場合、一般的には物件契約期間内に実施します。スケジュール作成に影響を及ぼすため確認が必要です。            |
|                    | <input type="checkbox"/> | 社内（担当者と経営層の間）で、原状回復工事の費用は「一般的に高額になりやすい」という認識を共有する | グレードの高い施設においては原状回復工事は構造上の問題から高額になりやすい工事です。この認識を現場担当者と経営層で形成することで、工事費を低減させていくための体制や対応が取りやすくなります。                |
|                    | <input type="checkbox"/> | 退去完了までに必要なタスクを整理し、大まかなスケジュールを作成する                 | 退去が完了するまでに何をいつまでに行わなければならないかのタスクを把握し、現時点で分かっている情報から大まかにでもスケジュールリングをするようにしましょう。作成してみると意外とスケジュールに余裕が無いことに気が付きます。 |
|                    | <input type="checkbox"/> | 退去に伴う費用がどの程度になるか予算感を把握する                          | どの程度の予算に収まれば良いのかを事前に把握するようにしましょう。オフィス移転であれば原状回復工事費用の他に、移転先の工事費用や物件取得に伴う敷金、引っ越し費用なども発生します。                      |

# 原状回復工事チェックリスト（見積取得する前-1）

| 項目                                | チェック                     | 内容                                                 | 備考                                                                                                 |
|-----------------------------------|--------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オーナーに退去を伝えた後、工事会社から見積を取得する前にすべきこと | <input type="checkbox"/> | 工事区分の範囲を調整する                                       | 工事内容から工事区分の範囲を交渉により変更できるケースもあります。建物全体に影響が出ない箇所を特定できれば、B工事区分だったものをA工事やC工事に変更し、費用低減へと繋がられることがあります。   |
|                                   | <input type="checkbox"/> | 工事が可能な時間帯や曜日を確認する                                  | 物件の立地や他フロアのテナントの状況により、工事は休日、夜間のみという可能性もあります。制限がある場合はスケジュールに影響が出るため工事会社と調整が必要になるので事前に確認をするようにしましょう。 |
|                                   | <input type="checkbox"/> | 工事発注の期日を確認する                                       | 昨今は特に資材などの材料不足などにより、工事発注の期日が早まる傾向にあります。スケジュール作成するにあたり工事発注の時期は重要な項目となるため、必ず確認するようにしましょう。            |
|                                   | <input type="checkbox"/> | 工事会社から見積を受領できる日付を確認する                              | 工事会社から見積をいつ受領できるかの確認しましょう。そうしなければ、工事会社によってはテナントが判断する期間を短くしようとわざと見積の提出を遅らせるところもあります。                |
|                                   | <input type="checkbox"/> | 明渡し期日から逆算したスケジュールを作成する                             | 工事期間の他、工事発注期日、見積内容の検証期間、工事発注日、再見積もりの作成期間などの項目を踏まえて明渡し日から逆算してスケジュールを作成しましょう。不明な情報については仮置きでも構いません。   |
|                                   | <input type="checkbox"/> | 作成したスケジュールが、工事会社からの見積を精査するための適切な期間を設定されていることを確認する  | 見積取得してから自社で内容を確認し精査するための期間を意識して設定するようにしましょう。                                                       |
|                                   | <input type="checkbox"/> | 作成したスケジュールが、工事会社に見積を再依頼した時に、十分な作成期間を設定されていることを確認する | 工事会社が見積を作成するにも、オーナー、元請け・下請けの工事会社など多くの利害関係者が存在しています。各社を調整しながら見積もりを作成していくため、再作成にも十分な期間が必要になります。      |

# 原状回復工事チェックリスト（見積取得する前-2）

| 項目                                | チェック                     | 内容                                  | 備考                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オーナーに退去を伝えた後、工事会社から見積を取得する前にすべきこと | <input type="checkbox"/> | 図面を準備する                             | 平面図の他、白図、床伏せ図、天井伏せ図、電気設備図面、給排水設備図面、空調換気設備図面、防災設備図面を準備しておきましょう。後々、工事範囲を工事区分表と照らし合わせながら確認するために必要となります。                                                                            |
|                                   | <input type="checkbox"/> | スケジュール管理を自社でコントロールできるように管理方法、体制を整える | スケジュールは自社で管理するようにしましょう。スケジュール管理をオーナーや工事会社に任せてしまうと工事費が高額となるリスク要因となります。進捗確認の頻度や方法などのルールを予め決めておくといいでしょう。                                                                           |
|                                   | <input type="checkbox"/> | 工事会社が見積を作成する前に、見積の一式計上を極力減らすよう伝える   | 工事の明細ごとに材料費と人工代、数量などといった項目を分けて見積を作成してもらおうようにしましょう。なるべく一式計上での項目を減らすことで、相場と比較したり価格を詳細に調査することが可能となります。                                                                             |
|                                   | <input type="checkbox"/> | B工事、C工事の特徴を理解して見積依頼を実施する            | B工事は指定業者に見積依頼を行います。その際に想定スケジュール通りに進める（交渉のステップを踏む）ことが重要なため、的確に管理会社、指定業者に見積指示してください。ただし、相手を見ながら何をどう伝えるか気をつける必要があります。C工事は最適な工事会社への相見積もりを取得することが重要です。また、ケースによっては買取業者を入れるなどの対応が必要です。 |

# 原状回復工事チェックリスト（見積取得した後）

| 項目                     | チェック                     | 内容                                     | 備考                                                                                                                |
|------------------------|--------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取得した見積を確認する時に気をつけるべきこと | <input type="checkbox"/> | 見積内容と図面上の数量、面積などの内容に整合性があるか検証を行う       | 見積と図面の内容が合っているかを確認するようにしましょう。例えば、電気工事であれば見積書に記載されている数量・長さと同図面上の記載内容から分かる配線の面積や数量が一致しているかなどです。                     |
|                        | <input type="checkbox"/> | 作業量と見積にある人工代が妥当であるか確認する                | 図面上で判明している作業量と見積に記載されている人工代が妥当であるか確認するようにしましょう。例えば、その工事に必要な資材の量と見積に記載がある資材の搬送費や搬入費（作業員数と稼働日）に妥当性があるかを確認するなどです。    |
|                        | <input type="checkbox"/> | 見積にある設備などの項目が契約時のものと同等のグレードであるかを確認する   | 原状回復工事は契約時点の状態に戻す工事です。契約時点の設備以上のグレードになっている場合、必要のない費用を支払われる可能性があるため契約時点での設備と同グレードのスペックであるかなど確認するようにしましょう。          |
|                        | <input type="checkbox"/> | 見積内容と工事区分表に記載された内容に間違いがないか確認する         | 当社が今までにご支援した案件の中には、工事区分表ではオーナーの費用負担であるA工事と設定された工事が、テナントの費用負担のB工事となっているケースがありました。こういった点が無いか見積内容はしっかりと確認するようにしましょう。 |
|                        | <input type="checkbox"/> | 各項目の単価をチェックし金額が妥当であるかを確認する             | 特にB工事は指定業者であることから相見積もりの競争原理が働かず、見積の各項目は高額になりがちです。単価をチェックし精査することで根拠を持って交渉を行えるよう準備しましょう。                            |
| その他                    | <input type="checkbox"/> | 上記に記載した各項目が実施できない場合、適切な判断ができるアドバイザーがいる | 見積もり内容が安いのか高いのかを査定したり、契約書と照らし合わせて妥当であるかを検証するには、一定以上の見識や経験が必要となるため専門家に頼むのも一つの手です。                                  |

原状回復工事を進める際は、契約内容、商流、ステークホルダーなどあらゆる視点を踏まえて進めていくことが肝要です。また、オーナー側との交渉となると、工事経験が浅い方には業界用語や建設業界特有の商慣習は難しく感じられるでしょう。そのため、発注者とオーナーの間に立つ専門家に頼るのも一つです。原状回復工事でお困りの際は、お気軽にナックスへご相談ください。

# 建設工事アドバイザーサービス 説明資料

# ナックスが提供する建設工事アドバイザーサービス

ナックスが提供する建設工事アドバイザーサービスは、**工事発注に関する課題や悩みを解決**します。

例えば、この様なお悩みを解決しています。

- どの様な工事をしたら良いか分からない
- 工事費の見積もりを取得したが高いため、工事費を下げたい
- 見積書を見ても高いか、安いかが分からない
- 見積り金額が下がらないと事業計画/投資計画が成り立たない
- 土地を購入すべきか、建築費の検証をしたい  
(事業計画/投資計画が成り立つかどうか検証したい)
- 築年数が経過し、老朽化が進んだビルやマンション、工場等を建替えたい
- これから複数の店舗、拠点を展開したいため、工事業務の標準パッケージをつくりたい
- 工事業務を兼任で担当しており、リソースを十分に割けない

# 建設工事アドバイザーサービスとは

建築の専門家であるナックスが発注者の伴走者として、工事プロジェクトをサポートし、理想の工事を実現するサービスです。

発注者の立場に立ち、工事プラン・費用の適正化支援を行っています。



法律のことは弁護士に頼むように、工事についても専門家に相談する必要があります。

# 建設工事アドバイザーサービスの特徴

- 特徴 1 過去**800**以上の案件で、工事費の平均削減率が約**23%**
- 特徴 2 全国に建設会社の業者網あり
- 特徴 3 経験豊富な専任コンサルタントが案件ごとに個別対応
- 特徴 4 お客様の考え方、ステークホルダーの関係性を重視
- 特徴 5 お客様に合わせた**2**つのサービス/報酬体系をご用意

完全成功報酬型  
工事費削減サービス

業務報酬型  
建設工事アドバイザーサービス

# クライアント企業様のご紹介

様々な業種の上場企業様や中小企業様とお取引しています。

## 【IT企業】

ヤフージャパン株式会社、株式会社ABEJA、株式会社アバン、株式会社COMPASS...

## 【製造業】

メタウォーター株式会社、株式会社バンザイ、株式会社ポールスタア、株式会社さかえ屋、有限会社早川製作所...

## 【クリニック・医療法人】

株式会社ステムセル研究所、株式会社グリーンファーマシー、健康予防医学財団法人、ヘルスケアアシュアランスジャパン株式会社...

## 【店舗展開企業・チェーン店】

株式会社エムアンドケイ、すかいらくグループ、株式会社subLime、株式会社パートナーズダイニング、株式会社ハイデイ日高、株式会社ネオ・エモーション、東京レストランツファクトリー株式会社、株式会社丸山珈琲、株式会社ゴンチャジャパン、株式会社フードリム、株式会社フラックス、株式会社アルプス、箱根ベーカリー...  
株式会社蔦屋書店、楽天モバイル株式会社、ウエルシア薬局株式会社、株式会社佐田、株式会社遠鉄ストア、有信アクロス株式会社、渡辺産業株式会社、新津山国際ホテル株式会社...

## 【その他】

タイムズ24株式会社、山野グループ、野萩商事株式会社、ダイセーロジスティクス株式会社、株式会社ポールスタア、株式会社バーディハウス、コンパッソ税理士法人、東京多摩青果株式会社、株式会社グローバル総合研究所、株式会社 コーチ・エィ、株式会社ピースリー、株式会社ワッフル、マンション管理組合...

# 工事費削減サービス 完全成功報酬型

# 内容・特徴（完全成功報酬型 工事費削減サービス）

イニシャルコスト不要の完全成功報酬でお客様が取得された見積から、品質を落とさずに工事費の削減を見出すサービスです。

お客様の考え方をヒアリングした上で、案件ごとに取組方法・スキームを提案し、工事費削減を実現します。

導入コスト  
0円

平均削減率  
23%以上

削減成功率  
97%

削減を目指す上でご確認させていただく内容例

見積書の検証  
(見積構成/見積内容)

図面の有無  
(工事内容の確認)

現地確認

時間的成約の確認

お客様の考え方

見積提出企業との  
関係性の確認

...etc

# 過去実績（完全成功報酬型 工事費削減サービス）

原状回復工事やB工事を始めとし、内装工事、大規模修繕工事、新築工事などあらゆる工事に  
対応。個別のご要望・ご相談に応じて取組方法を提案し、工事費削減を実現しています。



飲食業：大阪府

■案件：内装工事  
■取組前金額：7,200万円  
■取組後金額：6,200万円  
■削減金額：1,000万円  
■削減率：13.88%



IT業：東京都

■案件：原状回復工事  
■取組前金額：40.8億円  
■取組後金額：36.0億円  
■削減金額：4.8億円  
■削減率：11.76%



運輸倉庫業：神奈川県

■案件：倉庫新築  
■取組前金額：9,000万円  
■取組後金額：7,600万円  
■削減金額：1,400万円  
■削減率：15.56%



不動産オーナー：東京都

■案件：大規模修繕  
■取組前金額：3,300万円  
■取組後金額：2,740万円  
■削減金額：560万円  
■削減率：16.97%



ビル賃貸業：東京都

■案件：解体工事  
■取組前金額：3,500万円  
■取組後金額：2,400万円  
■削減金額：1,100万円  
■削減率：31.41%



IT業：東京都

■案件：オフィス移転  
■取組前金額：1.1億円  
■取組後金額：7,900万円  
■削減金額：3,100万円  
■削減率：28.21%

# 報酬体系（完全成功報酬型 工事費削減サービス）

工事費削減サービスは、

- ・ 完全成功報酬型です
- ・ 初期費用は一切掛かりません
- ・ 削減が出た場合のみ、削減額から報酬が発生します



※出張を伴うご支援の場合には、別途実費（交通費・宿泊費）を頂戴します

## 東証プライム上場企業子会社K社様 店舗閉店に伴う原状回復工事を最大36%削減

飲食事業  
工事費削減サービス

### ナックス支援前の課題

- ・ 原状回復工事において、適正な工事内容や金額が分からなかった
- ・ 工事の担当人数も少なく、工事案件に割けるリソースも限られていた

### ナックス支援を導入した目的

- ・ 取得した見積もり工事内容や金額が適切であるかを確認し、高いようであれば削減するため
- ・ 工事業務に関わる工数を軽減し、本来の業務への工数を確保するため



イメージ画像

### ー原状回復工事の案件を進めるにあたりお悩みのことはありましたか？

T.S様：閉店が決まるタイミングというのは突然で、半年以上前から分かっていることはあまりありません。また、閉店のプロジェクトは1案件につき6ヶ月以上は期間としてかかるため、将来的に複数案件を抱えることになると、私一人だけではリソースが足りなくなるなど考えていました。取得した工事の見積もり内容や金額が適正であるかの評価を自分自身で行うのは難しい、と感じていました。

### ーナックスのご支援でお感じになったメリットはどのようなことでしょうか？

T.S様：工事金額の削減はもちろんですが当社のリソース問題を解決できたことが挙げられます。工事金額は取組後の見積もり金額を見た時に、ここまで本当に落ちるの？と驚きました。こちらで相見積もりやできる限りの削減交渉した基準となる金額から、さらに相当分落ちたためです。逆に工事が無事に完了できるのかなと思ったくらいです（笑）この心配は杞憂に終わり、これまでいくつかの案件のサポートいただいておりますが全て無事に完了できました。

また、リソース問題のところで言えば、例えば施設側担当者と業者さんとの調整業務を担っていただいたことです。今まで施設側担当者から工事について把握していない内容を問い合わせをもらうこともありました。一つ一つ細かい点を工事業者さんと把握・確認した上で解決策を考えて、施設担当者に回答するなど相当数の工数をかけていました。そこを専門家であるナックスさんに施設側と業者さん側の調整をどう行うかまでサポートしてもらいました。

※全文はナックスWEBサイトに掲載しています（<https://nac-s.net/media/customer/a16>）

# 株式会社ナックスについて

# ナックスが選ばれる理由

多くのお客様にご満足いただき、リピートいただいております。

## 理由①

他サービス会社に取り扱わ  
ない工事規模・工種に対応

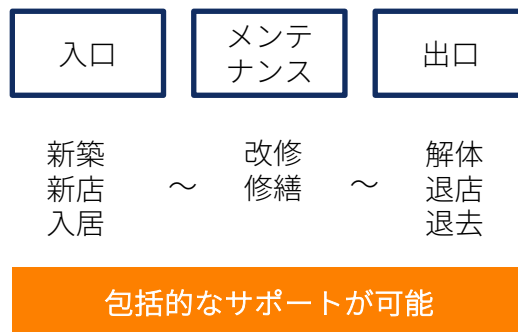
工事業務のコンサルティング会社には、特定工事に関する工事費削減会社やCM（コンストラクション・マネジメント）会社があります。ナックスはこの両者に取り扱わない、工事規模や工種の案件に取り組んでいます。



## 理由②

事業の入口から出口まで  
包括的な支援

ナックスは出店時の内装工事、メンテナンスの改修工事、撤退時の原状回復工事などあらゆる工事に対応します。事業の入口（新築、新店、入居）から出口（解体、退店、退去）を見据えた適切な工事発注をサポートします。



## 理由③

大切にしていることは  
誠実さとお客様の満足度

ナックスが工事発注のコンサルティングを推進する上でもっとも大切にしていることは「誠実であること」です。発注者様・元請企業様や協力企業様それぞれに個別のスキームで丁寧に協議・調整を行っています。



# お取引組みの流れ

お客様のご要望に応じながら、最適な取組方法を提案します。  
ご納得いただいた場合のみ、コンサルティングがスタート

## STEP 1

サービス説明  
ヒアリング  
ご提案

- ・ナックスサービス内容のご案内
- ・計画のご状況をお伺いし、最適な取組方法をご提案

## STEP 2

ご契約

- ・ご提案内容にご納得いただいた場合、ご契約
- ・成功報酬型でのご支援の場合は基準となる金額を決定

## STEP 3

コンサルティング

- ・専任コンサルタントがお客様のご要望に合った方法でコンサルティングを実施
- ・進捗状況などは随時ご共有

## STEP 4

工事発注

- ・獲得した取引条件を基に工事金額並びに施工会社を決定（＝工事発注）

## STEP 5

アフター  
フォロー

- ・工事の品質管理を担当者にて対応

# よくある質問

Q1 工事費削減サービスで工事費を削減すると、工事品質も悪くなるのでしょうか？

A1 工事費削減サービスは、設計図の内容は原則変更しません（部材や建材を変更しない）。そのため、工事品質は悪くなりません。新しい施工会社を推奨する場合にも、その工事が得意であること、しっかりとした実績があること、工事金額に見合った会社規模であることを考慮します。

Q2 いつ相談すれば良いのでしょうか？

A2 お客様が物件や土地の取得ないし、工事を行う意思決定をされた段階でご相談いただくと、適切なスケジュールを確保でき、適正金額での発注に繋がられます。

Q3 施工会社との関係は悪くならないのでしょうか？

A3 取組においては、関係性をお客様にヒアリングさせて頂いたうえで取組方法を決定いたします。当社はあくまでもお客様のパートナーとして、一般的な価格よりも高くなっている内容を適切にしていける取り組みを行っています。商流を見直すなど施工会社の利益率向上にも繋がるスキームもあるため、一概に関係が悪化する取組ではありません。

# 会社概要

## 会社名

株式会社ナックス 

## 設立

2013年4月

## 代表者

代表取締役 山本 隆広

## 所在地

本社 〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-27-17  
九州支店 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目4-8 601号室

## 取引銀行 (五十音順)

朝日信用金庫、足利銀行、神奈川銀行、静岡銀行、城南信用金庫、西武信用金庫、千葉興業銀行、ふくおかフィナンシャルグループ（福岡銀行、熊本銀行、十八親和銀行）、北陸銀行、北海道銀行、三菱UFJ銀行、山形銀行、山梨中央銀行

## 経理理念

～私たちの使命は新しいモノ・コトを創造させるキッカケを生み出す事～  
これまでにないサービスを提供し続け、  
商習慣や既成概念を無くす事で新たな気づきを未来に発信し続けます。

# お問い合わせ

工事発注について相談したい、工事費を適正化したい、改善したい  
という方はお気軽にご相談ください

## 電話でのお問い合わせ

03-6803-6456

平日10:00～18:00

## メールでのお問い合わせ

info@nac-s.net

会社名・氏名・メールアドレス・電話番号を  
ご記入の上、お問い合わせください

<https://nac-s.net/>

当社のホームページでも資料請求・お問い合わせができます。資料の郵送も承ります。  
また、工事発注に関するお役立ち情報を発信しています。